



ケアプランえん

5月からコロナ・ワクチン接種の予約が開始された。開始当初はコールセンターの電話は繋がらない、かかりつけ医の対応もいろいろで、自分では予約手続きができない利用者の方々の予約をどのように確保すればよいか、ケアマネもまごまごすることが多かった。その内、集団接種も始まり、利用者の状況に合わせた予約が可能になり、ホッと一安心。独居や高齢者夫婦で他に家族の支援が見込めない場合はケアマネが対応せざるを得ず、予約、接種共、一人一人の状況に合わせた支援が必要となる。ケアプランえんの場合、ネット・電話予約支援は14人、ケアマネジャー同行接種支援は5人、ヘルパー同行接種支援は7人の方々に対応した。

ヘルパー同行での接種は介護保険を利用可能だが、ケアマネの場合は業務外であり、「ボランティア」で支援を行うことになる。精神に障がいを持つ利用者の予約をしたものの、当日本人が不安になり、連絡が取れなくなって安否確認に半日要し、結局キャンセルした方。予約支援の上、会場に同行したが、接種券を紛失して再発行にケアマネが走り回り、何とか接種にこぎつけた方等々、施設とは違って在宅ならではの様々な状況に対応が必要になる。

ワクチン接種を希望する方は、誰もが等しく安心して接種できる権利と環境が必要であるはずだが、このコロナ感染禍という非常時に、ケアマネジャーの「善意」に任せることでいいのだろうか？そこで、暮らしネット・えんが発起人となって呼びかけ、6月22日、8事業所連名で新座市に下記内容の要望書を提出した。7月末現在、新座市からの返事はまだない。隣の朝霞市はいちはやく対応したので、新座市もぜひとも支給していただきたい。

1. 介護支援専門員に、要支援・要介護高齢者のワクチン接種予約支援と同行支援に対する謝金を支給して下さい。
2. 相談支援専門員に、障がい者のワクチン接種予約支援と同行支援に対する謝金を支給して下さい。

(ケアプランえん/加藤真弓)